

# 英語科における 言語活動の充実

(その1)

## ～言語活動の指導事項を再確認する～

言語材料の定着、コミュニケーション能力（外国語を運用することができる能力）の基礎をするという外国語の目標を達成させるためには、授業において言語活動をいかに充実させていくかが重要なポイントです。

学習指導要領には、下の表のように各領域で5つの言語活動の指導事項が示されています。この内容を確認し、各校で「聞く」「読む」「話す」「書く」の4領域の基礎的な言語活動を**総合的にバランスよく**計画的・系統的に行なうことが大切です。

※ 黄色い部分は、平成20年の改訂で新たに加えられたものです。（課題になっている部分です）また、弾力的な言語活動が展開できるよう3年間のものを一括して示しています。1・2年において、どの程度までを目指すか具体的に設定して指導する必要があります。（「CAN-DOリスト」とのかかわり）

	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと
(ア)	強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく聞き取ること。	強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく発音すること。	文字や符号を識別し、正しく読むこと。	文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意して正しく書くこと。
(イ)	自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聞き取ること。	自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること。	書かれた内容を考えながら黙読したり、その内容が表現されるように音読すること。	語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。
(ウ)	質問や依頼などを聞いて適切に応じること。	聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどすること。	物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。	聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりすること。
(エ)	話し手に聞き返すなどして内容を確認しながら理解すること。	つなぎ言葉などを用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けること。	伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し、適切に応じること。	身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の考えや気持ちなどを書いたりすること。
(オ)	まとめりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取ること。	与えられたテーマについて簡単なスピーチをすること。	話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること。	自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。